

平成 25 年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立宝木小学校

本校では、「やさしさ 勇気 喜び そして夢」を教育理念に学校・家庭・地域が一体となった教育活動を推進しています。特に、学習面は「喜びプロジェクト」として位置付け、基礎基本の定着を大切に「分かった」「できた」が実感できる授業づくりに努力しています。その授業づくりは常に改善が求められます。改善のためには評価が必要です。「全国学力・学習状況調査」は 6 年生を対象に行われているものですが、全国規模の調査であることから、児童の学習状況を把握しながら、私たちの指導を客観的に評価・改善することに役立ちます。そこで、調査の概要や結果を受けた課題と改善策などについて、以下のとおり公表いたします。

I 調査の概要

1. 調査期日

平成 25 年 4 月 24 日（水）

2. 調査対象

第 6 学年

3. 本校の参加状況

① 国語 A	105 人	国語 B	105 人
② 算数 A	105 人	算数 B	105 人

4. 留意事項

- （1） 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の 2 教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となります。
- （2） 本概要では国語と算数の「全体的な傾向」、「分類・区分別の傾向と課題」、「指導改善のポイント」を考察・記述しています。合わせて、「児童質問紙調査」を考察し、本校児童の特徴やよさ、今後の課題などを考察しています。

Ⅱ 調査結果の概要

1 国語

◇全体的な傾向

- ・国語A（知識）：平均正答率は全国平均正答率よりやや低い。区分別も、ほぼ同様だが、「読むこと」は全国平均を上回っている。
- ・国語B（活用）：平均正答率は全国平均正答率よりやや低い。区分別も、ほぼ同様である。

◇分類・区別別の傾向と課題

●課題があるもの

【話すこと・聞くこと】

A ●平均正答率は、全国平均より低い。この領域からの出題は設問で1問のみである。スピーチにおいて、比喩法や倒置法などの表現方法を捉えることに課題がある。

【書くこと】

AB ●目的に応じて資料を読み、分かったことを的確に書く、複数の内容を関係付けながら自分の考えを具体的に書くなどについて課題がある。

【読むこと】

A ○平均正答率は全国平均を上回る。

B ●二つの文章を比較して内容や理由などを読み取る力に課題がある。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

A ○ことわざの理解（「石の上にも3年」）が全国平均を上回る。

A ○広告を読み、編集の特徴を捉える力が全国平均を上回る。

A ●漢字の読みは定着しているが、書きに課題がある。

◇国語に関する児童質問紙調査の状況

●課題があるもの

《傾向》

○「国語の勉強は大切だと思うか」、「目的に応じて資料を読み自分の考えを話したり書いたりする」の質問の肯定的回答が全国平均を上回る。

●「読書は好きか」、「意見の発表で話の組み立てを工夫しているか」の質問の肯定的回答は、全国平均を下回る。

◇指導改善のポイント

【話すこと・聞くこと】

・スピーチの指導では、自分の立場や結論を明確にした上で、自分の考えが伝わるように全体の構成や表現の工夫を考えさせて行っていく。

・「話す・聞く」能力を育むために、児童の思いや意見を伝え合う機会を数多く設定していく。

【書くこと】

・日記、視写、短作文など、日常的な書く指導を大切にすること。

・新聞、意見文、紹介文など、目的や意図に応じた多様な学習活動を取り入れる。

【読むこと】

・登場人物や作品の構造、表現や叙述に即した読みの指導を重視する。また、同じ作者や同じ題材の作品を比べて読む並行読書を取り入れた指導など、効果的な読み方の理解や読書活動の充実を図る。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

・漢字を正確に読み書きできるようにするための日常指導に力を入れ、漢字辞典や国語辞典などを効果的に活用し語彙を増やす指導を行う。

・学習した語句を日常生活の中で積極的に使うよう継続的な指導を行う。

【その他】

・国語科で身に付けた言語能力を基盤に、生きて働く力となるよう、他教科・領域との関連を図った指導を重視していく。

2 算数

◇全体的な傾向

- ・算数A（知識）：平均正答率は全国平均正答率よりわずかに低い。区分別も、ほぼ同様だが、「数量関係」は全国平均を上回っている。
- ・算数B（活用）：平均正答率は全国平均正答率よりやや低い。区分別も、ほぼ同様である。

◇分類・区分別の傾向と課題

●…課題があるもの

【数と計算】

A ●平均正答率は全国平均よりやや低い。小数の加法計算の誤答が多かった。

A ○（ ）を用いた整数の計算、概数の処理は全国平均を上回る。

【量と測定】

A B ○面積の理解は全国とほぼ同じか、上回る問題もある。

A ●単位量当たりの大きさを求める除法の式の意味の理解に課題がある。

【図形】

A B ○平均正答率は全国平均とほぼ同じである。合同についての理解は全国平均を上回る。

A ●展開図に示された辺の長さで見取図の辺の長さとの対応について課題がある。

【数量関係】

A ○平均正答率は全国平均を上回る。

B ●表から数値を取り出し、二つの数量の関係が比例の関係であるかどうかを考察し、数と言葉を用いて記述することに課題がある。

◇算数に関する質問紙調査の状況

●…課題があるもの

《傾向》

○「算数の学習で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える」、「算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている」の肯定的回答が全国平均を上回る。

●「算数の授業で新しい問題に出会ったとき、それを解いてみたいと思うか」の肯定的回答が全国平均を下回り、新たな課題・問題へのチャレンジ意欲に課題がある。

◇指導改善のポイント

【数と計算】

- ・課題のある小数の四則計算を中心に、反復練習に力を入れて指導に当たる。
- ・概数処理の問題は県平均、市平均共に全国平均を下回っているが、本校では全国平均を上回っている。習熟度別学習等、丁寧な指導の取組の成果と判断できる。一層、力を入れて取り組んでいく。

【量と測定】

- ・単位量当たりの大きさを求める式の意味を理解できるようにするために、数直線や面積図などを用いて式と商の意味を考える活動を工夫する。
- ・混み具合を調べる学習では、面積と人数のどちらかをそろえれば、もう一方の量の大小で比べられることを見いだせるよう、表を用いた指導の工夫を行う。

【図形】

- ・図形を観察して特徴を捉える活動や、見取図・展開図をかくて位置関係を調べる活動を充実させる。
- ・作業的体験的な活動などの算数的な活動を積極的に取り入れていく。

【数量関係】

- ・基準となる表の数値を設定し、それをもとにして対応や変化の規則性を説明する活動の充実を図る。
- ・割合の問題で、基準量と比較量を基にして割合の大小を比較・判断できるようにするため、基準量が異なる場面を示し、比較量が同じで割合が異なる例を具体的な数値を用いて確認していく。

【その他】

- ・基礎的な計算技能の確実な定着を図るために、反復練習を効果的に取り入れる。また、少人数指導・習熟度別指導など、個に応じた指導を一層充実させる。
- ・算数に対する学習意欲を高めるような教材の工夫、学習形態を一層工夫していく。

《傾向》

全て、「している」という、最も肯定的な回答で考察した。

- 「朝食を毎日食べていますか」は、全国平均を上回っている。最も基本となる生活習慣のひとつとして、今後も気を配っていきたい。
- 一方、「毎日同じ時刻に寝ているか」「毎日同じ時刻に起きているか」は全国平均に比べてかなり低い。基本的な生活習慣の確立は課題である。
- 「家の人と学校での出来事について話をしていますか」は全国平均を上回っている。家族との会話がよくなされているとすれば、望ましい状況である。
- 「地域の大人に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがありますか」の回答が大きく全国平均を上回っている。これは、本校でのボランティア活動が活発で、地域の方々に遊びを教えてもらうなど、様々な活動を体験していることの反映であると判断できる。また、「地域の大人から褒められたことがありますか」の回答も全国平均を上回っている。地域の方々との交流の場が児童により影響を与えていると言える。
- 「自分は、よいところがあると思いますか」の回答は、全国平均を下回っている。自尊感情や自己肯定感がやや低いことが読み取れる。自己肯定感の育成は、本校の重点であるが、一層の充実が必要である。
- 「新聞を読んでいますか」の回答は全国平均を大きく下回っている。「読書は好きですか」も下回っており、広い意味での「読書」の推進が課題である。「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか」の回答が全国平均を上回っているだけに、読書の重要性が一層顕著になってくる。